

大学共同利用機関法人自然科学研究機構

施設マネジメントの取組状況

(平成22年度の実績)

●はじめに

「大学共同利用機関法人自然科学研究機構施設マネジメント・ポリシー」に基づき、本機構が設置する国立天文台、核融合科学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所の5つの機関における平成22年度の取組状況を以下のとおり公表します。

●国立天文台

◎クオリティマネジメント

- ・三鷹地区の主要な建物の窓に熱線反射ガラスフィルム貼りを計画的に実施している中、平成22年度は開発棟（北）の窓ガラスフィルム貼りを施工して、建物の断熱性向上を図りました。
- ・故障が多く発生していた三鷹地区のすばる棟の空調機と野辺山地区のボイラーを更新して、教育研究環境の向上を図りました。
- ・三鷹地区において、消防法上火災報知設備の設置義務の無い建物3棟に火災報知設備を設置して、防火対策を強化しました。
- ・岡山地区及び水沢地区において、老朽化した水道管の更新を行い、水質衛生管理の向上を図りました。
- ・三鷹団地の主要建物の屋外鉄扉部分について塗装修繕を実施し、老朽防止対策を図りました。
- ・野辺山地区の本館に身障者用エレベータを設置して、バリアフリー化を図りました。

◎スペースマネジメント

- ・ALMA棟の完成に伴い、ALMA推進室が使用していた研究室・実験室をALMA推進室以外のプロジェクトに対して配分するために、企画委員会においてヒアリングを行い、三鷹地区の研究室・実験室の再配分を実施しました。
- ・三鷹地区の常時公開では、見学者数が年間14,000名を超えています。見学

者は今後さらに増えることが想定されることから、広報普及活動をより強化・充実するために、東京大学から譲り受けたプレハブ建ての展示室を休憩室に用途変更し、その休憩室に隣接する西棟1階を展示スペースに用途変更して有効活用を図りました。

◎コストマネジメント

- ・各工事において、省エネルギー型の設備機器（LED照明、インバーター式空調機、熱交換換気扇、ボイラー）を設置しました。
- ・各工事において、再生材や汎用品を積極的に採用し、コストの縮減に努めました。
- ・省エネポスターを作成し、全職員へ省エネルギーの協力要請を実施しました。

●核融合科学研究所

◎クオリティマネジメント

- ・屋上防水、建物外壁、屋外鋼製部分の塗装等について、建物修繕年次計画に基づいた修繕等を実施しました。
- ・落雷による被害が多いため、防災設備機器に避雷設備を設置しました。
- ・総合工学実験棟の照明設備について、年次計画に基づいた更新改修を実施しました。
- ・図書書庫の防カビ措置として、除湿効果のあるデシカント換気装置を設置しました。
- ・安心安全な施設として適切な維持管理を行うため、管理棟等の建物について約 7,000 m²の外壁タイルのひび割れ、はく離等の状況調査を実施しました。

◎スペースマネジメント

- ・共同研究者等の利便性向上に配慮したビジターセンターの設置及びその他事務室等の再配置について、平成21年度に実施した施設利用状況調査に基づき、使用形態に応じた部屋配置を行い、施設の有効活用を図りました。
- ・構内で不要となった備品類を一斉廃棄し、実験室及び居室の有効スペースの拡大を図りました。
- ・研究部等の組織変更に伴う施設使用状況の変化を調査し、有効活用の検討が必要なスペース等の状況を、施設整備委員会を通じて研究所内に周知しました。

◎コストマネジメント

- ・ 屋上防水改修工事において、防水仕上材に省エネ効果のある遮熱塗料を採用しました。
- ・ 省エネルギー対策として、各建物の誘導灯をLEDタイプのものに取り替えました。また年次計画に基づく照明設備の改修において、省エネ型の照明設備を採用しました。
- ・ 空調設備の省エネルギー対策として、大型ヘリカル実験棟実験室用空調機の新鮮空気導入をCO₂センサーによる制御化などの改修を実施しました。
- ・ 全職員にクールビズ、ウオームビズ励行等の電子メール通知、パソコンの省エネ設定施行のシールを配付するなど、省エネルギー意識の啓発及びエネルギーコストの削減に向けた取組を行いました。
- ・ 構内草刈り業務について、年間契約による競争入札を実施する事により、契約単価コストを12%削減することができました。

●岡崎3機関（基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所）

◎クオリティマネジメント

- ・ 生理研実験棟改修設計業務において、環境配慮型プロポーザル方式により設計業者を選定することにしました。
- ・ 分子研実験棟改修工事において、耐震改修を含めた全面改修が終了し、卓越した研究拠点として機能し得る安全な教育研究環境の向上を図りました。
- ・ 岡崎3機関において、老朽化した照明器具の調査を行い、発火の危険性があるものについて更新を行いました。
- ・ 三島ロッジにおいて、屋内に設置された給湯器をより安全性の高い屋外設置型に更新しました。
- ・ 明大寺地区において、切り土状態で崩れる可能性があった法面による壁工事を行い、安全性の向上を図りました。
- ・ 三島ロッジにおいて、避難放送設備を設置し、非常時における安全性の向上を図りました。

◎スペースマネジメント

- ・ 分子研実験棟改修工事において、共同利用スペースとして実験室等を125㎡確保しました。
- ・ 基生研形質統御棟RI施設の規模の見直しを行い、一般実験室スペースとして210㎡を確保しました。
- ・ 公用車の見直しにより、空いた車庫に清掃員控室51㎡を確保しました。

◎コストマネジメント

- ・各種保守業務において、仕様の見直しと複数年契約を行い、前年度比で年間4,600千円ほど経費削減を図りました。
- ・省エネルギーに対する啓蒙活動として、毎月の電気、ガス及び水道の使用量を前年度同月の実績と比較したものを、ホームページ等で公表するとともに、毎月1日を省エネの日と定め、メール等で全職員に省エネルギーを呼びかけました。
- ・引き続き省エネルギー対策として、高効率機器への更新(変圧器、空調機、照明等)、空調設備の運転調整、人感センサーの設置を行いました。
- ・夏季の省エネルギー対策として、統合事務センターにおいて、3日間の一斉休暇を行いました。

【※岡崎3機関とは、愛知県岡崎市に位置する基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所及び共通の研究施設を指し、一体的な施設マネジメントを実施しています。】